

(清水町) 清水ミライ自分ごと化会議 議事メモ

全体コーディネーター	伊藤 伸
日時	令和2年8月31日(月) 19時00分から21時40分まで
場所	清水町文化センター2階 会議室2
その他	コーディネーター 渡辺浩二(十勝の未来を考える自治体職員の会:芽室町職) ナビゲーター 香田裕一(十勝の未来を考える自治体職員の会:幕別町職) 藤谷満伸(同上:大樹町職) 参加者数 22名(オンライン3名) 欠席者数 29名 傍聴者数(町民)7名、(町外)1名、(報道)2名、(YouTube)17名 事務局 前田 真(企画課長)、川口二郎(企画課長補佐)、 田村幸紀(企画課政策企画係長)、木村翔(企画課政策企画係主事)、桂井那津未(企画課政策企画係主事)、川岸祐仁(構 想日本)

趣旨・概要

第7回目のテーマは「提案書のまとめ」

今回は総合計画策定に向けて住民目線で議論してきた内容を「提案書」という形でまとめる。

この提案書は9月13日に開催する町民フォーラムへと引き継がれ、より多くの町民との議論へつなげていく。

提案書の説明とこれまでの振り返り

この提案書は完成版ではない。皆さんのこれまでの意見を構想日本でまとめたものになる。この提案書は自分ごと化会議の委員が町長に提出する提案書という位置づけとなる。

これまで全6回の議論をしてきた。前半の3回はアンケートの中で強みとして取り上げられた部分を各回で議論してきた。後半3回は、3回通して課題として取り上げられた部分を議論してきた。これらをまとめたものが19の提案となる。

19の提案について議論

【食と農業】

メ：少子化が進んでいったときに、清水町の農業をどう維持していくのか。

コ：新規就農は一定数あると感じられるか。

メ：あると思うが、いろいろな支援が必要。初期投資が莫大にかかるなどすぐに就農できる現状ではないと思う。町や農協などがいろいろな面で協力していくことが必要。

メ：提案5の農業の多面的機能について、北海道の交付金がある。草刈や花の植栽について農村部全体でまとまってできていない部分があるため、積極的にやっていくべき。農村環境の整備は町を含めてやっていきたい。農村部はゴミ捨て場ではない。町と地域が一体となって、ごみはごみ箱に捨てる意識改革をしてほしい。

【文化とスポーツ】

メ：小学校の頃からリーダー会に入っていた。その中でドイツと触れ合う機会があり、第九が歌えることが強みだった。清水町にはたくさんの少年団があるが、これが知れ渡ってないため、少年団を通してドイツと触れ合う機会を生かしきれていない。これをもっと生かすことで、少年団の繁栄や指導者の育成にもつながる。現在はリーダー会の人数も減り、縮小しつつある。高校生になると、ドイツに行く機会を必ず作れる。全国にも知り合いを作れるチャンスにもなるため、もっと広まると良いと思う。

メ：強みを出していくという提案は賛成。アイスホッケーのために全国から移住してくる人もいるためすごいと思う。アリーナ通信の中で防具にかかる費用の特集があった。親が消極的になってしまう気持ちもわかる。ただし、町が負担するものでもないと思うため難しい。合唱をもっと強みにすべきだと思っている。しかし、教育関係者の立場からすると、行政から口出しされるとカチンとくることもある。第九が浸透していくために何をしていけば良いか難しい。

事：清水地区に住んでいるため、アリーナへの移動が大変。足の確保について支援してほしい。部活バスが出ているが、19時以降は走っていない。これは今年追加されたもので少しずつ支援は厚くなってきている。金銭的な支援は個人でかかる費用も違うため、基準が難しく町としては厳しいと思う。お金以外の支援が増えると良いと思う。

コ：提案7については、補助金ではなく裾野を広げる意味でもPRの支援をどうしていくかになると思う。

メ：第九は小学1年生の子どもも歌える環境にあると思う。昔は1年に1回コンサートをやっていたが、財政的な理由で中止となった。これから財政的な余裕があるのであれば、みんなで合唱できれば良いと思うが、人口減少社会の中では難しいと思う。清水の第九のイメージを崩さないように何らかの形で継続していくべきだと思う。

メ：町民体育館は場所が遠く利用しづらい。小さくても良いので、街中に体を動かす施設があれば良いと思う。

事務局：町民体育館も老朽化しているため、教育委員会が中心となって建替えのための場所を選定している。これから町民の意見を聞いて決めることになると思う。ぜひ楽しみにしてほしい。

【立地とアクセス】

メ：清水公園の活用については役場でも検討していたと思うが、結論が見えていない。清水公園の活用方法について広く町民に意見を求めたらどうか。提案することよりも町民の意見を聴くところから始めてみてはどうか。体育館についても同様。無作為抽出で各層から集めた意見をもらったほうが、深めやすいと思う。

コ：予想以上に清水公園についての意見があった。今回は清水町を通過点にしないという提案となっている。町民が使う公園だと思うか。

メ：お盆に行く機会があったが、町外者が子どもを連れて、遊びに来ていた。もう少し遊具が充足してくると、更に親子が来られる良い場所になると感じた。これを活かしながらいろいろな波及効果が期待できる。

メ：若い人や家族連れが来ている印象がある。舞台が撤去されたため、イベントは難しいかもしれないが、遊具やアスレチックなど自由に遊べるスペース、飲食もできて、車中泊もできる気軽に利用できる施設になれば良いのではないかと思う。

メ：広報でフロイデの看板の撤去について見た。看板を撤去するのもお金がかかるため、看板の再利用を検討しても良いのではないかと思う。

事：看板が町のものではないため難しい。元々フロイデは町で作った施設だが、民間に譲渡している。看板も含めて譲渡したため、権利の面で足踏みしている状態。継続的に協議を進めている段階のため、ご理解いただきたい。

メ：コミュニティバスの利用人数があまりにも少ないため、見直ししていくことが必要。免許返納後に帯広に行く手段を考えてほしいと思っている。

コ：提案書を提出することによって行政としては何かしらやらなければならないと思う。提案書が次につながるきっかけになると思う。コミュニティバスを町外で走らす場合については、

国の補助金の対象外となる。しかし、帯広と協議会を作って、走らせる場合には補助金の対象となる場合がある。

メ：タクシーについては多くの高齢者が利用しているのではないかと思う。高齢者のタクシー利用があるということはタクシーがどれだけ介護に手を差し伸べられるかが大事になると思う。介護的な部分を更に強化してほしいと思う。タクシーチケットをどれだけの人が活用しているのか。有効活用するために工夫が必要だと思う。

事：配布した6割くらいしか使われていないのが現状。使える事業者が指定されているため、使いきれていないという現状もある。

コ：タクシーの目的を多様化する具体例として、人口3万人くらいの市で65歳以上は事前に予約すれば、どこの目的地でも行けるデマンドタクシーを行っている。利用には1回200円かかる。高齢者の約60%が利用している。外出の機会の支援にはかなり役立っていると思う。

メ：清水公園のイベント企画のなかにBBQ大会との記載があるが、バーベキューハウス以外での利用は可能か。コロナ渦の中でキャンプ等の利用が増えているため、清水公園でキャンプの推進をできれば良いと思う。

事：自由に歩いたり是可以するが、パークゴルフの利用等もあるため、キャンプやバーベキューを自由にはやることはできない。一定程度のルールの中で使っていただいている。

コ：芽室町では嵐山で研修を行うなど外を利用した取組を行っている。職員もカジュアルな格好で参加をするので、開放的で楽しそうに会議を行っている。十勝は天気も良いので今後のコロナ社会において外の使い方は十勝にとって強みになるのではないかと思う。

【少子高齢化】

メ：情報発信にもつながるが、今あるサービスは何があるかなど具体例があれば、自分も活用できるか判断しやすいと思う。清水公園は体育館から公園に抜けるところが真っ暗になるため、夕方以降は近づけない。このような小さな意見を町民が発信しやすい意見箱のようなものがある良いと思う。

コ：電気を明るくしてほしいというような意見は今回の総合計画には入ってこないと思うが、この提案書は総合計画を作るためだけでなく、今後の清水町を考えるための提案にもなるため、総合計画に盛り込まれなかったとしても、できる部分はやってほしいと思う。

メ：提案12の行政④の表現を変えたら良いと思う。啓蒙活動と一括りで記載されているが、啓蒙活動だけを視点においてしまうと、PRだけをすれば良いと受け止められがちになってしまう。ケースごとの対応の強化とケースをつなげていく支援に表現を変えてみてはどうかと思う。

メ：農村部と町内とのつながりを高齢者だけでなく、子どものころからつながりを確保できればと思う。農村部は農村部だけで完結してしまう現状にある。農家を継がなかった子どもがどうしたら清水に戻ってくるか考えることがある。農村部と町内とのつながりを持つことで若い世代が戻ってくるという循環につながればと思う。農村部は親が頑張らないと、町内に接続することができないため、町内の子どもとつながりに差ができてしまうと感じる。高齢者だけでなく、子どもの足の確保も必要ではないか。

コ：同じ町でも接点の少ない地域の差をどうしていくか。その中の一つとして移動の部分がある。移動しやすい環境があれば子ども同士もっとコミュニケーションをとることができるかもしれない。農村部と町内との地域差を役場としてはどう捉えているか。

事：農村部のコミュニティがしっかりしすぎていて農村部で完結してしまう印象がある。清水市街や御影市街とつながる雰囲気はないかもしれない。

メ：農村部も農事組合という形ではなく、町内会という扱いにしている町があったと思うが、なぜそうしているのか教えてほしい。清水町の農事組合が町内会に移行するメリット、デメリットを知りたい。

コ：鹿児島県にやねだんという集落がある。そこは農家の人が多いが、町内会としてすべての業務を行っており、行政からの委託事業も町内会で受けている。町内会での活動については給料を出すという形をとってやっている。メリット、デメリットについてはわからない。

メ：昔の農事組合は農協単位だった。離農や非農家が増えてきて、非農家が逆転してしまったため、町内会を作っても良いと思う。昔は農家が主体だったため、農事組合で良かったが、地域によっては町内会という形にしても良いと思う。

メ：大樹町では大規模な法人農家がある。そこに勤めている人は休日など働き方が決まっている。このスタイルは子どもを育てる上で良いと思う。都会に求人を出して、住む場所も提供することでそこがコミュニティとなる。現代の人は周りへのおせっかいは好まない傾向にあるが、家族単位に留まらず、コミュニティの中で一緒に暮らしていけるような新しいコミュニティがあっても良いのではないかと思う。今住んでいる人だけでなく、新しい人も取り入れながらコ

コミュニティを形成していくことで新しい農村部の形になるとおもしろいと思う。

コ：福岡県にある市では無作為抽出された人達がこの中でコミュニティができればおもしろのではないかという話になり、30人くらいのライングループを作った。以前の豪雨災害の際は、お互いに災害情報を共有しており、新しいコミュニティだと感じた。

メ：以前に今の子ども達はゲームが主で、公園で遊ばなくなったという話をしたが、小学生以上の子どもの目線で話していた。しかし、未就学児はゲームをあまりしないのではないかと思う。古い公園を修繕していくのではなく、新しく大きい公園を作ることで、SNSでも広まり、町内外の人がたくさん利用するのではないかと思う。

メ：今はSNSで素敵な公園は広まっていく。自分の友達もサルビアのパンケーキを目的に清水公園に来ている。また若者は写真を撮るのが好きのため、桜や紅葉など清水公園は知名度があると思う。未就学児が遊べる環境を清水公園で充実させると良いと思う。

メ：子どもだけでなく、高齢者も公園を利用する。公園のあり方も変わってきている。広く多面的な公園を作ってほしいという話があったが、もっと身近な公園になるように、広く町民から意見を集約してほしい。

【情報発信】

メ：提案17の行政④は地域格差だけでなく、年齢格差も生まれないように多方面で同じ情報を発信していくことが必要。

メ：情報を発信するだけでなく、情報を吸収して活用していくという方向もあって良いのではないかと思う。

メ：発信するだけでなく、情報を常に行政が聞き入れることも大切だと思う。

メ：町のパンフレットや地図が重要だと思う。お店などを紹介するときに、ずっと清水に住んでいる自分達の中では当たり前のことを知らない人に伝えるのが難しい。

メ：清水町にはたくさん良いところがあるが、どこに行けば良いのか聞かれることも多々あるので、SNSを活用してどんどん発信していければ良いと思う。

メ：公園の草刈や落ち葉の処理など公園管理をしっかりとやってほしい。

メ：使えない公園は意味がないと思う。どのような公園が必要とされているのか今回のような会議などを通して意見を聞いてほしい。

メ：一役場職員として参加させてもらったが、いろいろな意見を聞いて良かったと思う。皆さんからいただいた意見や思いを受け止めながら、形を作っていくべきだと改めて感じた。

メ：19の提案について行政として実現可能だと思うか。

事：これまでの議論でできないと思ったことはその場で言ってきたため、この中に不可能なことはないと思う。財政的な部分もあるため、来年に全てを実現することはできないが、10年間で実現不可能な提案はないと感じている。

コ：総合計画の素案よりみなさんからの提案書の方がかなり具体性がある。これから総合計画にどこまで具体的に記載できるかについては企画課だけで決められるものではないため、今後担当課と調整していく中で変わってくると思う。提案書については基本このまま進めつつ、今日皆さんからいただいた意見を修正していきたいと思う。財政的な制約や人口減少については、この提案には盛り込まれていないため、この提案を実現するにあたって、少子化や人口減少などを考えながら進めていく全体的な部分については皆さんのアンケートを参考に作っていきたいと思う。